

評価者	
所属	明星大学 理工学部総合理工学科
職名	教授
氏名	井上 一

1. 研究の進捗状況,研究実績について

昨今は、個々の研究者の研究費の中で、科研費の占める割合が増え、そこでは、個々の研究の成果が求められる。一昔前は、講座費と称する、必ずしも先が見えない萌芽的研究をサポートする予算がそれなりにあった。また、科研費にも、総合研究と称するもののような、多くの萌芽的研究を束ねる項目があった。しかし、今は、かけた予算に見合った結果を出すことが求められ、必ずしも目に見える成果が出るとは限らない萌芽的研究を行う土壌がどんどん失われている。ある程度の設備費、材料費等を必要とする実験系は特に深刻である。そのような状況の中、立教大学の先端科学計測研究センターという必ずしも大きいとは言えない組織の中で、私立大学拠点形成事業の下、かなり広い範囲の基礎物理学研究が行われていることは貴重である。研究の発表を聞かせていただいたが、それぞれ地道に研究が進められており、全体として成果をあげつつあると評価する。

2. 改善が望まれる点

上に述べたように、萌芽的基礎研究としては、それぞれの担当研究者が、それぞれの目指す方向に、自分が思うままに研究を進める面が許容されるべきである。しかし、そうはいつても、重箱の隅をつつくような研究にならないよう、「宇宙像研究の拠点形成」という全体の目標にどう近づいているかの自己評価も必要であろう。今回の成果報告会では、個々の研究報告において、その点についての言及が十分にはなかった。もっとも、この先、この総合研究プログラム推進のもとになっている私立大学の拠点形成のプログラムがなくなり、この立教大学での取り組みの成果が、次の実際の拠点形成につながることはなくなったと聞いた。それは、たいへん残念なことであり、先につながる何らかの予算措置がなされることが、もっとも望まれる点であろう。